

定年退職を目前に控えた夫婦が建てた「終の棲家」。一見するとシンブルでモダンな印象だが、至るところに「老後」を意識したプランがさりげなく組み込まれている。

「さりげなく、が重要。年寄りらしさを強要しないところがいい」とNさん。確かに、バリアフリーを声高に主張するような住まいは、体力も気力もまだまだ充実している健康な夫妻にはそぐわない。

庇がついた長いスロープは幅も広く、傾斜もゆるやか。訪れる人のほとんどが、平坦な「本来の通路」ではなく、無意識にここを通る。それほどに、手すり付きのスロープがアプローチに溶け込んでいるということだ。

「暮らす人にとって快適なことが一番大切」と夫妻は笑顔でいう。家の主人公は暮らす人であるということとを再認識させてくれる「らしくないバリアフリー住宅」だ。



「ドアを開けた瞬間の明るさと開放感が気持ちいい」

「老後を見据えた家だからといって“年寄りらしく”ある必要はないはず」

「車椅子の母が来たときも喜んでいました。スロープから玄関、リビングへと苦もなく移動できましたから」

さりげなく、

老後

千曲市 N邸

「このスロープ、雨や雪の日は格段にいい車から玄関まで濡れずにすみます」



間を極める

玄関



「退職前に家を建ててよかったと思う。体力的にも、家を建てる時期はあるんですね」

「空や雲や月を眺める時間が
確実に増えました」

蒼穹の 夢心地

千曲市 N邸

「夏は涼しく、冬暖かく、静かで、
便利で、くつろげて、
今からリタイア後が楽しみです」

吹き抜けのある、明るくて広い家が理想だった。とはいえ、Nさんは退職を間近に控えて老後を意識せざるを得ない世代。いざというときのために、水周りや寝室は1階に配し、バリアフリーを徹底。2階はフレキシブルなスペースにした。吹き抜けの天井高は6m。南面の大きなガラス越しに仰ぐ高い空が、たまらなくいい。奥様が愛するの初秋の光景。手入れされた庭園(栗田融デザイン)と、その先に広がる冠着山の紅葉に目を奪われる。ご主人の好みは冬景色。夕暮れ時に映捨サービスエリアの明かりが灯れば、ちょっとした一杯やりたくなるのも当然だ。





東御市 T邸 設計:荒井 洋
HAL設計室 TEL.0263-33-6186



駒ヶ根市 S邸 設計:片倉隆幸
片倉隆幸建築研究室 TEL.0266-24-3748



中野市 湯本邸 設計:湯本弘行
誠設計事務所 TEL.026-295-6060



伊那市 M邸 設計:片倉隆幸(修景設計)
片倉隆幸建築研究室 TEL.0266-24-3748



松本市 倉橋邸 設計:倉橋英太郎
倉橋英太郎建築設計事務所 TEL.0263-26-6765



高森町 三石邸 設計:木下 光
環境プランニング TEL.0265-23-5450



安曇野市 S邸 設計:酒井一恭
建築設計Studio03 TEL.0263-83-7903



安曇野市 H邸 設計:林 隆
林建築設計室 TEL.0263-85-2117



松本市 Y邸 設計:轟 信也
源池設計室 TEL.0263-34-4814

ご
協
力
い
た
だ
い
た
家

間を極める

松本市 倉橋邸



上田市 清水邸 設計:清水国寿
しみず建築工房 TEL.0268-72-5078



千曲市 N邸 設計:古川達也
古川都市建築計画 TEL.045-623-8994
施工:長坂建設 TEL.026-272-2762